外国語活動における授業づくりのポイント

木庭　健人

１　外国語活動における主眼について

外国語活動では，授業の主眼を二つの観点から書きます。一つは，内容【知識及び技能】の観点をしぼり，各言語活動の目標と結びつけて書きます。二つは，必然性のある場面に応じた言語活動【思考力，判断力，表現力等】を具体化して書きます。

○　主眼の作り方の例（言語活動が解説書 P.21（２）話すこと［やり取り］イの場合）

主眼１　～（題材）について，～（自分の考えや気持ちなど）を，～（言語材料）を用いて，伝え合うことを楽しむことができるようにする。

２　～（場面）において，～（目的）するために，～（状況に応じた工夫）してやり取りすることができるようにする。

【第３学年「 I like blue. 」の主眼の例】

○　学習指導要領解説の目標（言語活動）を参考に，言語活動と狙う内容を結びつける。

【話すこと［やり取り］イ：解説書】P.21

イ　自分のことや身の回りの物①について，動作を交えながら，自分の考えや気持ちなど②を，簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする③。

① 題材→色，食べ物，スポーツ

② 好きなもの伝え方，好きなものの尋ね方

③ 言語材料→“I like ～.”“Do you like ～?”

＋

【英語の特徴等に関する事項：解説書】P.21

ア　言語を用いて主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ること。

言語活動を通して，相手に自分の好きなものを伝えること，そして自分のことを知ってもらえることの楽しさを味わう。

→期待感，達成感，満足感の高まり

主眼１　好きな色，食べ物，スポーツについて，自分のことを知ってもらうために“I like ～.”で伝え，相手のことを知るために“Do you like?”で尋ねるやり取りをして，英語で好みを伝え合うことを楽しむことができるようにする。

主眼２　自分の好きなものと相手の好きなものが同じかどうかを尋ねる場面において，お互いのことをより詳しく知るために，友達の好きなものを予想したり，やり取りの見通しをもったりして尋ねることができるようにする。

２　外国語活動における単元指導計画について

外国語活動の単元指導計画では，以下の四つの段階を大切にします。つかむ段階では，児童が設定したコミュニケーションの目的や場面，状況などを理解します。見通す段階では，目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てます。試す段階では，目的達成のため，言語活動を通して具体的なコミュニケーションを行います。振り返る段階では，コミュニケーションについて，言語面・内容面で自らの学習の振り返りを行います。

段階	内容	具体例　第３学年「 I like blue. 」
つかむ	単元のゴールで何をするのか明確にする。	好きなものを友達や ALT の先生に伝える自己紹介をするというめあてを見いだす。
見通す	単元のゴールに向かって何が必要か思考する。	好きなものの伝え方や好きかどうかの尋ね方，それに対する答え方を知る。
試す	身に付いてきたことを生かし言語活動を行う。	自分なりのコミュニケーションをし，中間評価や教師のモデルを参考に，修正する。
振り返る	言語活動を行ったことの価値について自覚する。	自己紹介を終えて，本単元全体を，言語面と内容面で振り返り，学びを実感する。

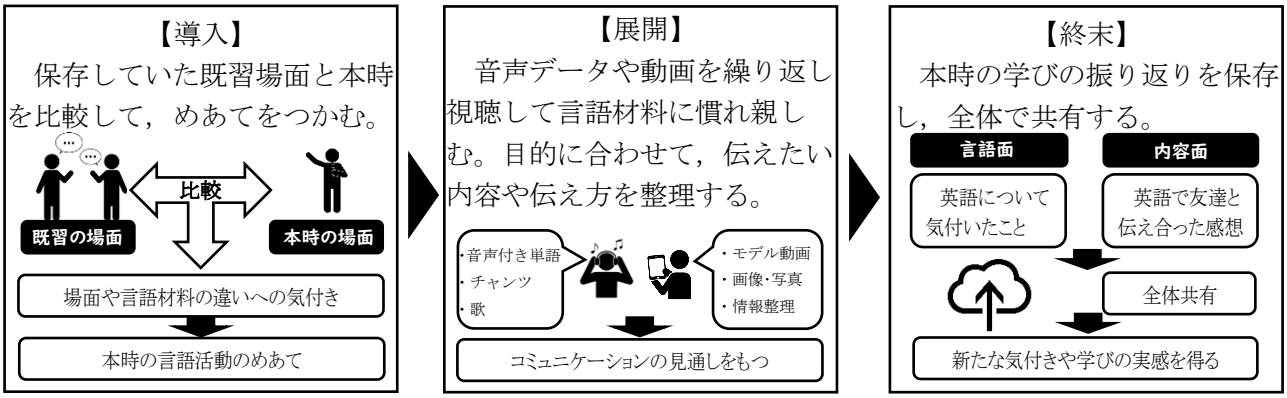
3　外国語活動における一単位時間の学習過程について

外国語活動では，子供自らが目的意識をもち，目的や場面，状況に応じて相手に配慮しながら知識及び技能と思考力，判断力，表現力等を一体的に活用する実際のコミュニケーション場面を設定した学習過程が大切です。

○　一単位時間の学習過程（波線は，ICT 活用）

段階	子供の活動	○教師の具体的支援
導入	○　慣れ親しんだ表現や語句と本時の言語活動を比べ，伝えたい内容について話し合う。 既習の場面 ⟷ 比較 ⟷ 本時のモデル場面 □□について（言語活動）しよう。	○　本時学習のめあてをつかませるために，目の前でのやり取りを見せたり，学習者用端末でモデル場面を視聴をさせたりして，既習場面と比較する活動を位置付ける。
展開	○　自分が伝えたい内容を明らかにし，表現や語句の確認，伝え方の工夫についての見通しをもつ。 【伝えたい内容の明確化→本時の見通し】 ①　伝えたい内容を整理する。 ②　英語表現や語句を活用できるようにする。(取捨選択) よりよい伝え方を工夫する。 ○　具体的な場面において，相手に伝わるように意識しながらコミュニケーションを図る。 （※　中間評価により，子供の思考を活性化） 自分なりのコミュニケーション → 高まったコミュニケーション 期待感　主体的な言語活動　達成感や満足感	○　本時の見通しをもたせるために，学習者用端末を使って既習表現を聞く活動や前時までのスタディ・ログを見る活動を位置付ける。 ○　よりよいコミュニケーションへと導くために，言語活動の途中で，教師が撮影した子供達が伝え合う姿やコミュニケーションへの気付きについて話し合っている姿を視聴する活動を位置付ける。
終末	○　全体で振り返り，本時の学びを明らかにする。 □□を（工夫）すると，○○できると分かった。 ○　言語面（英語への気付き）と内容面（伝え合った感想）で，個人の振り返りをする。 ※　外国語活動は全体でまとめを行わないときもある。	○　まとめを見いだすために，全体で気付きを発表する場を位置付ける。 ○　学びを実感させるために，言語面と内容面の振り返りを学習者用端末でさせ，共有する。（ワークシートも可）

4　外国語活動における ICT の活用について　※ ICT の活用は主眼達成の手立てであり，目的にならないように気を付けます。

外国語活動では，ICT の活用について大きく二つの用い方があります。
・コミュニケーションを円滑にするための道具としての用い方。
・コミュニケーションの学びを蓄積するための道具としての用い方。

○　外国語活動における ICT を保存や共有機器として用いる学習過程